

## 外部講師の講演に質問 人文学部後援会総会を開催

茨城大学人文学部は、18日、後援会総会を開催した。総会には、学部側からは、佐川泰弘学部長や田中裕評議員ら執行部員のほか各コース長、事務方など30人が参加、保護者約200人が出席し、会場の10番教室は、盛況のうちにスタートした。



就活専門家による特別講演では、「内

定が出ない時にはどう対応すべきか」、「本命でもない企業の内定はもらうべきか」など、



学生の就職活動を見守る保護者の切実な質問が目立ち、講師は、「先方に実情を、誠意を持って学生が説明するのがいいのではないかなどと答えていた。

3部構成の総会は、第1部が佐川学部長による開会のあいさつ、第2部が就職活動に関連した外部講師による特別講演、3部は、総会で構成され、終了後には、教員による保護者相談会も開かれた。

総会は、冒頭、佐川学部長が保護者の加入状況などの後援会の運営状況を説明、後援会が学生の教育活動などで重要な役割を果たしている現状を報告した。



第2部の特別講演では、人文学部が、学生の就職活動などで指南を受けているリクルートキャリア社の長嶋信也さんが「安心して就活生を見守る・応援するための保護者のための就活講座」と題して講演した。



長嶋さんは、保護者世代に比較して学生の就職活動がエントリーシートを通じた選考など大きく変わっていることを指摘。学生の就職活動では、保護者の励まし、いやし、心の支え、聞き役になってあげることなどが大事であるとアドバイスした。

また、内定が決まった就職先の企業の知名度が低くても、頭ご

なしに否定するのではなく、学生がなぜその企業を決めたのかなどについて聞いてあげることが大事であると強調していた。

第2部では、後援会会長や学部長の挨拶後に議長を選出、平成27年度の事業・決算や監査が報告され、平成28年度の事業・決算、役員なども拍手で了承された。その後、2016年の就職状況が説明された。

後援会から資金支援をうけて学生が実施した教育・研究活動の報告では、①常陸太田市、常陸大宮市での文化財の集中曝涼②地域連携活動としての小美玉市の観光PR活動の参加③タイのトゥラキットバンディット大学への留学の3つが報告された。総会は、午後4時前に閉幕した。



終了後に開かれた保護者説明会には、約20人の保護者が教員の待機している講義棟2階の演習室を訪問し、就職活動などについての心配事の相談に乗っていた。

